

俳優 石上亮の大好きな宿題

『映画感想文』

第2回 パラノーマル・アクティビティ

2010年2月3日

藤枝市に富洞院というお寺があります。小高い丘の上から新興住宅街が見下ろす先に、保存されたかのように緑が茂る場所にそのお寺はあります。その近辺で、ガキの頃に親戚とよく肝試しをしました。オレの母親の兄弟はメチャクチャ仲良しで、その子供のオレたち従兄弟同士は兄妹みたいに育てられました。しょっちゅう親戚同士で集まっては食事会をしてました。その中に、靈感があると言ってはばからない叔父さんがいました。夏の食事会では、叔父さん主催の肝試しがもれなく付いてきました。いつも叔父さんは決まって先陣を切るんですが、お目当てのスポットに近付くにつれ「何か動いた」「声が聞こえる」などと言って煽り始めます。そして、到着するや否や、いきなり大声をあげてオレたち子供を脅かすんです。オレはいつも年下の従兄弟たちを置いて、一目散に逃げてました。

製作費 135 万円の映画『パラノーマル・アクティビティ』。「全米初登場 48 位の作品が、公開 5 週目にして 1 位」という、映画は製作費じゃないんだと言わんばかりのフレコミ。フェイクドキュメンタリーという、実際に起きている出来事が事実であるかのように表現する手法で撮られた作品。この手の作品で大ヒットしたのが『ブレア・ウィッチ・プロジェクト』でした。あの当時は、映像が本物なのかどうかを友達と真剣に議論している可愛いオレがいました。今回、『パラノーマル・アクティビティ』を観終わって思ったのが、この際フェイクだろうがリアルだろうが関係ないな、と。ホントよくできている映画で、飽きずに楽しめます。登場人物は、同棲生活を送っているデイトレーダーのミカと女子大生のケイティ。この若いカップルに夜な夜な起きる超常現象を確認する為に、ミカはわざわざカメラを購入して記録しようと動き出します。最初はその行動自体が唐突過ぎて、付いて行けなかったんですが、若いカップルのありがちな日常生活を丁寧に、そして自然に描写しているので、いつの間にか自分のことのように世界に入り込んでいました。またブラピとアンジーのような世間離れしたカップルじゃないって設定も良かったのかもしれない。もちろんフェイクドキュメンタリーなんで、その辺はリアルに見せる為に、身近にいそうなカップルみたく演出する狙いがあったのだと思います。カメラを回して記録を撮り始めてから日が経つにつれ、徐々にエスカレートしていく超常現象。それに対して妙な正義感で臆することなく立ち向かっていくミカの姿は、観ていて微笑ましいです。オレは超常現象に真向かうのはマジ勘弁です。若干ミカに憧れました。

冒頭で紹介した富洞院には、叔父さんが眠っています。叔父さんは幸せだなんて思いません。だっていつでも大好きな肝試しができるんですからね。もちろんオレは勘弁ですが。あっ、映画なら問題ないです。真冬にホラー映画、いかがでしょうか。